

探究学習の現場から

New

第1回 千葉県立浦安高校

▶設立：1973年 ▶種別：全日制／普通科／共学 ▶生徒数：1学年約240人
▶校訓に「明朗・友愛・努力」を掲げる。生徒の基礎学力の向上に力を入れ、習熟度別授業や英語の学び直し授業を実施。
▶2020年度合格実績（現役のみ）：私立大は、東海大、帝京大、大正大、日本大などに延べ53人が合格。短大進学11人。専門学校進学98人。就職47人。

浦安高校の探究学習

内容	千葉県内を中心に10の大学・団体と連携。大学教員や専門家を講師に招き、10分野のゼミを開講。小グループに分かれて、情報を調査・整理したうえで「問い」を設定し、その答えを自分たちで導く。	
対象・期間・時数	・1年次の「総合的な探究の時間」を活用 ・年間10回20時間実施	体制 ・「探究ゼミ」の推進は若手・中堅教員を中心としたプロジェクトチームが担当 ・学校支援センター「浦高プライド」が外部との協力体制を整備
テーマ例	「ディズニーだけが浦安じゃない!」(観光ゼミ)／「恋愛の好きと友達好きの違い」(心理ゼミ)／「竜巻を発生させることは可能か」(物理ゼミ)	評価方法 ・2019年度まではレポート内容、発表のやり方などを総合評価 ・2020年度以降はルーブリックを導入し、指導と評価を一体化



校長 若菜秀彦

わかひてひこ●1987年同志社大学文学部卒業。1998年兵庫教育大学大学院学校教育専攻修了。1987年4月より浦安市立中学校や浦安市教育委員会に勤務。2017年4月より現職。

指示待ち、受け身、自信がない。自らの問いを深める学びで「大学で学ぶ」ことへの意欲湧く。

探究をキャリア教育の第一歩として位置付ける

「真面目で素直だけど、何でも指示待ち。学びにも、生活にも受け身。進路選択も、行きたい学校ではなく、今の学力で行けるところ。私がこの高校に赴任したとき、生徒に抱いた印象です。高校は、社会に人を送り出す最前線であるのに関わらず、常に誰かの指示を待つ人間のまま、世に出して

3年間のキャリア教育関連行事と探究ゼミ

	1年次	2年次	3年次
4月	・進路適性検査 ・進路説明会	・進路説明会 ・インターシップカウンセリング	・進路説明会
5月	・探究ゼミ①	・「10年後の自分」①	・進路講座
6月	・探究ゼミ②	・「10年後の自分」②	・進路面接指導
7月	・探究ゼミ③	・インターシップ	・会社見学
9月	・探究ゼミ④		・推薦入試説明会 ・共通テスト説明会
10月	・探究ゼミ⑤		
11月	・探究ゼミ⑥ ・バス見学 ・探究ゼミ⑦		
12月	・探究ゼミ⑧	・進路講座 ・公務員対策講座	
1月	・探究ゼミ⑨ ・探究ゼミ⑩	・進路面接事前指導 ・進路面接指導	
2月	・進路講座		
3月	・インターシップ希望調査		・入社前講習会



▲探究ゼミの運営に関わる大平豊教諭。自身が担当する社会の授業でも、「問いづくり」を取り入れる試みを始めたという。「大学の先生が行うテーマ設定の方法、探究の深め方は非常に参考になります。生徒たちは、通常の授業でも、探究ゼミで学んだ情報の収集方法、データの見方、アンケートのやり方などを活用するようになりました」と成果を語る。

探究をはじめ、高校の教育改革には環境整備が必要ですが、学校だけの予算では賅えないという現実があります。そこで、*1 コミュニティ・スクールでもある本校は、「浦高プライド」という全国でも珍しい学校支援のための外部団体をつくり、そこから資金やマンパワーの提供を受けるしくみを整えました。探究ゼミでもかねてより、調べる手段、ツールの確保が課題でしたが、浦高プライドがクラウドファンディングで資金を募り、各グループ1台のタブレットをそろえることができました。教室も大学並みとはいきませんが、地域から寄付された椅子や

始めたたりするなど、生徒の中に、進路を主体的に考える意識が芽生えつつあるのを感じています。さらに本校の教員も探究ゼミに刺激を受け、前年度から一部の教科の授業で探究の手法を取り入れるようにもなりました。

地域、そして大学と共に生徒を育てていきたい

自分が興味のあるものを選択。示されたテーマに対して自分たちで「問い」を設定し、グループワークに取り組みながら1年間(20時間)かけて、その答えを探究します。こうした授業スタイルに高校教員は慣れていませんから、外部の協力が不可欠です。県内はもとより首都圏の大学をいくつも訪問。構想を語って協力をお願いし、ゼミ開講にこぎつけました。

ファイールドワークをしたり、実験を何度も繰り返し問いそのものを深めていったりなど、これまでのワークの空欄を埋めるような授業とはまったく違う学びのスタイル。生徒たちは徐々に自ら動き出すようになりました。夏休みに自主的に調査活動をしたり、実験をしたり。今では生徒のレポートに当たり前のように入力されている。論文が紹介されています。

探究を通じて「大学」がイメージできるように

探究ゼミで生徒は、大学や地域の専門家が聞く「日本文化」「観光」「福祉」「物理」など10のゼミから

大学への期待

教育の取り組みについてもっと高校に情報提供を!

多くの大学が高校訪問で提供する情報は、入試関連ばかり。一方で教育の情報はほとんど提供されず、高校に伝わっていません。高校訪問では、進路指導部ばかりではなく、教務部にもぜひ声をかけてみてください。探究学習では大学と本気の連携をしたいので、教育についての議論は大歓迎です。

機器を活用し、手づくりのラーニングコモンズを整備中です。今後に向けた課題は、適切な評価方法の確立です。これまではレポート内容や発表のやり方等を総合的に見て点数を付けていたものが、基準があいまいだったという反省もあります。これからはルーブリック評価を取り入れ、事前に評価の観点を生徒に伝えておくなど、指導と評価の一体化を図りたいと思います。

自分が興味のあるものを選択。示されたテーマに対して自分たちで「問い」を設定し、グループワークに取り組みながら1年間(20時間)かけて、その答えを探究します。こうした授業スタイルに高校教員は慣れていませんから、外部の協力が不可欠です。県内はもとより首都圏の大学をいくつも訪問。構想を語って協力をお願いし、ゼミ開講にこぎつけました。

*1 コミュニティスクールとは、「地域とともにある学校づくり」への転換をめざし、住民や保護者も参加する学校運営協議会で運営を行う学校
*2 浦高プライドとは、公立高校のため学校が直接的に契約や実施することが難しい外部企業との連携や寄付行為を代わりに行う学校支援センター。補講や部活の外部講師やコーチ派遣、クラウドファンディングでの寄付金集めなどを代行する